

あいであ & アイデア

# 冬季の飲水改善で発育向上 ～熱帯魚用水槽ヒーターで飲水量の減少対策～

大分県農林水産部 白根 英治

## なぜ冬季の飲水量対策がなぜ必要だったのか

大分県の久住高原に近い竹田市久住町で繁殖牛120頭（当時）を飼養する植木三雄さんの営農地域は、県内でも有数の寒冷地域で、冬季は氷点下になることも珍しくありません。

冷たい水では飲水量が減少し、固形飼料の摂食量も落ちてしまうことから子牛の増体に影響を与えてしまいます。また、下痢などの疾病の心配もあります。

そこで、子牛用の飲水を暖めることとしましたが、なるべく安価で対策を行いたいと、平成21年11月に県の振興局等と対策を検討しました。

## ポイントは目立たないこと

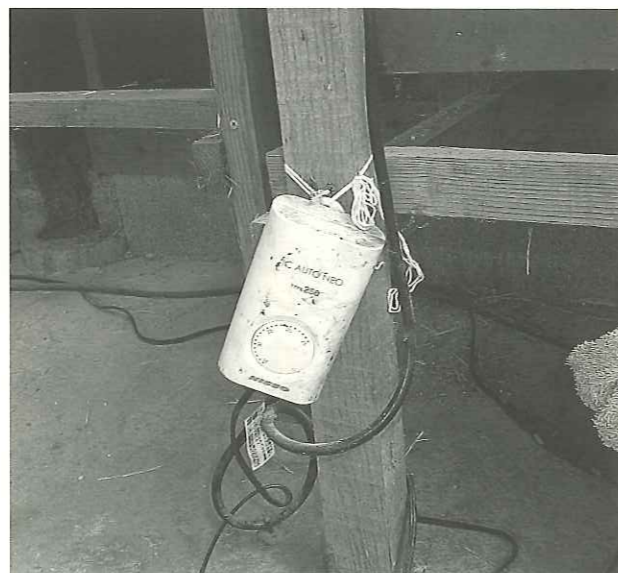
他の地域での事例などを参考に、安価で安定した加温が得られる熱帯魚用水槽ヒーターを活用することとしました。

ポイントは、水槽内の水を十分に温めることのできるヒーターの能力と、子牛のイタズラ防止です。

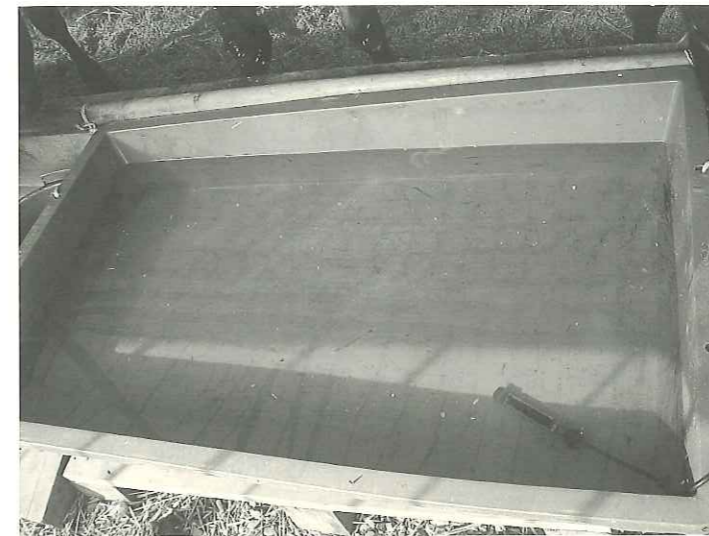
子牛が興味を引かないように、ヒーターを板などを使って見えないようにしている市内の



熱帯魚水槽ヒーター（5000円程度）



温度コントローラ



熱帯魚水槽ヒーターの設置



イタズラ防止対策

事例を参考に、イタズラ防止を図りました。

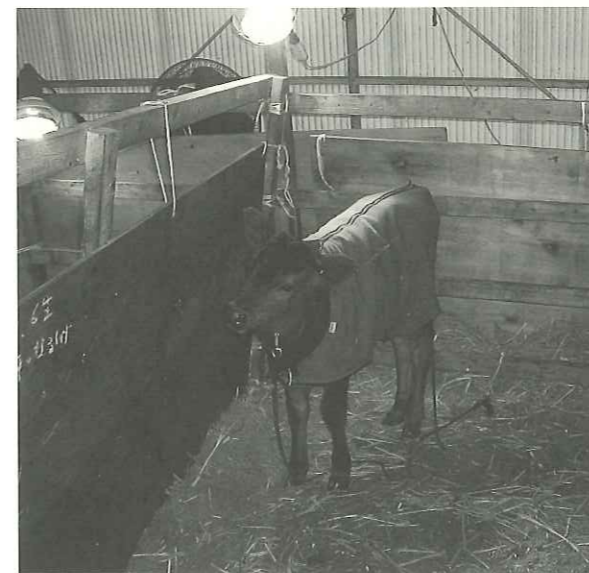
水槽で目立たない形状の場合は、そのままの状態の水に沈めて、効果を調べました。子牛の性格によって、ヒーターを噛られて廃棄することが何度かあり、イタズラ対策は工夫を続けていく必要があります。

## 水槽ヒーターの効果

このヒーターにより、気温4℃の時でも水温は17℃と暖かく、飲水量を増やすことができました。

植木三雄さんは、この熱帯魚用水槽ヒーター以外にも、防寒衣や投光機で暖を取るとともに、冬の牛舎内の換気に気を配るなど子牛の体調維持に万全を期しています。

このような取り組みにより、日齢体重の改善が図られているとのことでした。



投光機や防寒衣も合わせて子牛を守る

## これからの広がり課題

熱帯魚用水槽ヒーターは、安価で取り組みやすい工夫だと思いますが、冬季の寒冷対策は、換気などを合わせてトータルで考える必要があることから、専門家の方に早めに相談することが肝要です。

（筆者：大分県農林水産部森との共生推進室 森林環境保護班 主幹）

あいであ & アイデア